

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	14-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Women's frequency of alcohol consumption prior to pregnancy and at their pregnancy-booking visit 2001-2006: A cohort study. 妊娠前および妊娠診察受診時の女性の飲酒頻度について：2001-2006年：コホート研究</p>		
執筆者		
Kingsbury AM, Hayatbakhsh R, Gibbons K, Flenady V, Najman JM.		
掲載誌		
Women Birth. 2014 Dec 2. pii: S1871-5192(14)00103-6. doi: 10.1016/j.wombi.2014.11.005.		
キーワード		PMID
飲酒行動、飲酒、疫学、妊娠、若年女性		25487003
要 旨		
<p>目的： 若年女性における飲酒行動による健康被害・問題に関するエビデンス確立のため、病院ベースのコホート研究により、i) 自己申告に基づく飲酒頻度およびその変化、ii) 妊娠前の飲酒頻度の増加が妊娠中の飲酒頻度の増加に随伴しているかどうか、iii) 妊娠中に飲酒する女性の特徴について明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法： 助産院を 2001 年から 2006 年に受診した 19,699 名の女性を分析対象とした。妊娠前および妊娠診察受診時の飲酒に関する情報について、その傾向をノンパラメトリック分析および交絡因子を調整し多変量解析を用いて分析した。</p> <p>結果： 少なくとも毎週飲酒する女性の割合は、妊娠前は 25.4%、妊娠診察受診時では 5.9%であった。妊娠前において少なくとも毎週飲酒する 20 歳以上の女性の割合は 2001 年から 2006 年にかけて有意に増加傾向にあった (傾向 P 値 <0.001)。第 3 次教育を受けている女性では妊娠前に少なくとも毎週飲酒する者の割合が多かった。20 歳未満の女性では妊娠前、妊娠診察受診時ともに、少なくとも毎週飲酒している者の割合が少なかった。多くの子供を有する者およびアジア人は、妊娠前、妊娠診察時ともに少なくとも毎週飲酒している者の割合が少なかった。</p> <p>結論： 妊娠を認知した際は大部分の女性は飲酒を止めており、この傾向は近年増加傾向にあった。</p>		